

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Hahaha スマイル		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 21日		～ 2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26人	(回答者数) 17人
○従業者評価実施期間	2025年 2月 21日		～ 2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3人	(回答者数) 3人
○訪問先施設評価実施期間	2025年 2月 21日		～ 2025年 3月 21日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	20施設	(回答数) 11施設
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 4月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	障がい児通所支援事業にて5年以上の経験を持つ知識と経験が豊かなスタッフが訪問支援に出る。	スタッフそれぞれが持っている知識と経験だけで取り組むわけではなく、日々情報のアップデートを行い、相談し合う事でスタッフ同士の協力をしてチームで取り組む。	それぞれのスタッフが持っているスキルに加えて、必要な研修を受ける体制を構築していく。
2	多機能型ではなく、保育所等訪問支援【単独】であることから学校や園での困り感に対して多様なニーズに応えることが出来る。	訪問施設への丁寧な説明をすることで支援に対してご理解を頂き、必要性を理解していただくように努めている。	訪問施設だけでなく、他の障がい児通所支援施設や相談支援員さんを巻き込むことで、関わるみんなが同じ方向性を向いて支援に取り組むことが出来るようにする。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	多機能でないことから、初めて関わるお子さんの場合には関係構築が必要。	保育所等訪問支援単独で行うことのデメリットである。	より丁寧できめ細やかなアセスメントを行う事と、支援に入った際には訪問支援員から積極的にコミュニケーションを取るなどで関りを増やし、関係を構築していく。 必要に応じて担当者会議などに積極的に参加をする。
2	事業所の規模が小さいために、今後の受け入れが逼迫してくる可能性がある。	ニーズの多さと比較して弊所だけでなく、全体的に保育所等訪問支援事業所の数が不足している。	採用を強化しつつも資格だけでなく、経験と知識を持った者を採用することで、支援の質を落とさないようにする。
3			